

# あかあ

4 April 2015  
第732号  
平成27年4月1日発行  
(毎月1日発行)

[広報]

Public Relations SAMEGAWA

## 農家民宿の 可能性

【特集】



農家民宿を開業した増子信男さん(61)と三代さん(61) 来客を優しい笑顔で「おかえり」と迎え入れる 温かい人情と飾らないおもてなしは鮫川ならではの 素朴であればあるほど、幸せの記憶は鮮明に残る 「また来ます」と帰る人が、「ただいま」と帰ってくる そんな心のふるさとも目指し、本格始動する農家民宿に密着した

あかあ  
Public Relations SAMEGAWA

4 April 2015

平成27年4月1日発行(毎月1日発行)  
第732号(昭和27年9月創刊)

発行/福島県鮫川村 編集/鮫川村役場企画調整課  
〒963-8401 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂中野字新宿 39番地 5

金婚を迎えた夫婦を紹介



半世紀の  
Episode\_16 歩み

齋藤輔男さん 美津江さん  
赤坂東野字広畑 / 1964(昭和39)年11月結婚

**結**婚したのが、まるで昨日のことのように感じる」と、輔男さんは目を閉じて50年を振り返りました。西島旅館で結婚式をし、新婚旅行にも行きました。そのときに買った茶たぐを今でも大切に使っています。輔男さんは本業の竹細工のほか、繭とコンニャクの仲買を、美津江さんは

役場に勤めながら、子ども2人を育て上げました。養蚕の最盛期には、夜遅くまで一緒に仕事をしたといいます。現在は、孫の成長が何よりの楽しみだと話すお二人。送迎をしたり、手作りのおかずを食べさせたりしています。「孫からお礼の手紙をもらった」と目を細めました。

### こちら村長室

▼別れがあるから、出会いがある。この時期、若者の大きな目標を持つての巣立ちがあり、それぞれにご家族の期待を背負っての入学式がありと皆さん忙しくなります。▼村議会も、今期最後の3月定例議会となりました。議員も私も4年間最後の責務に緊張していました。議案が多く、「みんなが安心して暮らせる村づくり」「人の集まる活気のある村づくり」の目標達成に、65件の議案の審議をいただく議会となりました。▼27年度は、4月に村議会議員、8月に村長、11月に県議会議員の選挙となります。青年が高い志と勇気を持って村長選挙、議会議員選挙に挑戦できる機会です。村を変えるのも、新しい時代を築くのも勇気ある青年の力です。年々厳しさを増していくかのような農村の社会経済環境の中、知恵を出し合い、豊かな明るい農村を目標に、さらに頑張れる村、そして議会となりますよう願っています。

大樂勝弘

# 農家民宿の可能性



上\_野菜をふんだんに使った料理を楽しむ都市住民。その新鮮さに感動し、ひっきりなしに箸がのびる/右\_小雨が降る中での野菜収穫体験となったが、童心に帰ったように楽しむ都市住民しらかわアグリツーリズムin鮫川



## 農家民宿の人の愉快的トークと気配りが行き届いていた

50代男性

採れたて野菜の料理が盛りだくさんでよかった

60代女性

## 地元のおいしい食材を食べられてよかった

10代男性

緑と田んぼの稲とのコラボレーションが何とも言えない

70代女性

## 散歩中に出会った人とあいさつを交わせたことが幸せ

50代男性

※参加者を対象に実施したアンケートの一部抜粋

# 発進

## 動き出した農家民宿

### 「暮らす家」から「人を迎え入れる家」に生まれ変わった7軒 本格始動に向けて準備は整いました



1\_野菜収穫を体験する青菅小の児童と受入農家/2\_朝日山登山が雨天のため中止。代わりに「ほっとはうす・さめがわ」でバウムクーヘン作りに挑戦/3\_別れに涙を流す児童と受入農家。2泊3日でも心が通い合った(青菅小グリーンスクール)

### 農家民宿とは

農家に泊まり、地元食材で作られた料理を食べ、農作業をするなどして、地元の人たちと交流ができる農家民宿。農村の豊かな自然、生活や文化などに直接触れられる新しい旅のスタイルです。

これまで生活の場であった農家が、人を呼び、おもてなしをする場所になる。これならば新たに宿泊施設を建てなくても、鮫川村に宿泊する人を増やせます。これは村が取り組んできた「あるもの生かしの村づくり」そのものです。

自ら作った農産物や山から採った山菜などを、自分の手で調理し、消費者に直接提供できるのは、究極の「産地直送」。新鮮な食材を地域特有の調理方法や味付けで堪能できるのは、お客さんにとって最高のぜいたくであり、農家民宿の魅力の一つでもあります。

### 子どもたちとの交流に感動

村は、1987年の東京鮫川会発足を皮切りに、グリーン・ツーリズムに取り組んできました。95年には、都市交流の拠点施設として体験交流型宿泊施設「ほっとはうす・さめがわ」を整備。東京農大、大妻女子大や福島大などを受け入れ、交流の幅を広げてきました。

08年からは、農山漁村で子どもたちに宿泊体験をさせる全国的な取り組み「子ども農山漁村交流プロジェクト」がスタート。村は、この事業を受け入れるため、それまで個別に活動していた団体や指導者が連携して活動する組織「鮫川村農村体験交流協議会(グリーン・ツーリズム協議会)」を発足させました。

10年、農家民宿開業を加速させる転機が訪れました。青菅小学校(千葉県佐倉市)グリーンスクールの受け入れです。小学



喜多方市の農家民宿を視察。囲炉裏を囲みながら、おもてなしを体感する参加者

6年生48人が農家13軒に分かれて宿泊。子どもたちは各農家との交流を存分に楽しみ、帰るころには、「お父さん」「お母さん」と呼ぶほど絆を深めました。当時、子どもたちを受け入れた根本良子さん(62)＝西山字岩野草Ⅱは「本当に楽しかったです。子どもたちが帰ってしまっときは、寂しさに気持ちが落ち込むほどでした」と振り返ります。このときの感動が、農家民宿開業への意欲を高めたのです。

グリーン・ツーリズム  
農山漁村に長く滞在し、農林漁業を体験したりその土地の自然、文化に触れたりしながら、地元の人たちと交流する旅。滞在期間は、日帰りから長期的または定期的・反復的な場合までさまざま。ヨーロッパでは、農村に滞在してバカンスを過ごすというスタイルが普及している。

# 発光

## ここにしかない 光がある

都市住民を魅了し、夢中にさせる何か  
それはこの村で過ごす、最高の時間

### おもてなし好きの村民性

来客があれば、お茶はもちろん、お菓子や自家製の漬物などが次から次へとテーブルに並びます。もてなすことが好きで、他人のために何かをして喜んでもらうことに喜びを感じる人が多い鮫川村。しかし、現在はそのおもてなし好きの村民性を生かす機会が減っています。以前は、多世代同居の家が多くありましたが、核家族化、少子化が進んだことで世代間分離が起

きています。孫に手料理を振る舞い、喜んでもらうという機会も必然的に減りました。そのような状況の中、農家民宿はおもてなし好きの村民性を最大限に生かせる舞台なのではないでしょうか。

### 収入よりも交流が喜びに

利用者から宿泊料をもらうことが、収入の確保につながることは事実です。しかし、経営者にとっては、それ以上に大切なものがあります。それは都市住



左\_夕食を食べながら会話を楽しむ利用者と受入農家/上\_私たちが普段から食べている料理が最高のおもてなしになる

民との交流です。農家民宿「郷里」を営む本郷訓子さん(57)は「西山字落合」は「若い人たちの話を聞けるのが楽しいです。夫婦だけではできないような会話ができます」と目を細めます。都市住民の生活や価値観を知ることができたり、反対に農業や農村の生活の魅力を伝えたりできることは、受け入れにかかると手間や苦勞を上回る喜びを与えてくれます。

お酒を酌み交わし、地元の食材を使ったメニューや郷土料理に箸をのばせば、さらに会話は弾みます。やむことなく続く会話は、普段の生活では味わえない、刺激や喜びを共有させてくれるのです。お金で買えないぜいたく都市住民は、なぜ決して便利とはいえない農家民宿を選ぶのでしょうか。

### お金で買えないぜいたく

都市住民は、なぜ決して便利とはいえない農家民宿を選ぶのでしょうか。



### Interview

実習期間中、農家民宿を利用した大学生に聞きました

#### おばあちゃんの家にいるような気持ちに

石川菜摘さん(20) 東京農大短大部醸造学科2年

みんないい人ばかりで、まるでおばあちゃんの家にいるような気持ちになりました。実習で疲れたときもおいしい夕飯のことを考えると頑張れました。実習が鮫川村でよかったです。



#### 地域の人と話して行事や郷土料理を知った

岩永みちるさん(20) 東京農大短大部醸造学科2年

地域の人を直接聞いて、行事や郷土料理について知ることができました。旅館などに泊まったら経験できなかったことだと思います。家族や友達を連れて、また鮫川村に来たいです。



一流ホテルや高級旅館は、行き届いた接客、豪華な料理、便利な設備や美しい客室など、お金をせば「最高の空間」を提供してくれます。しかし、人やモノがあふれる豊かな社会の中で生活し、接客慣れた都市住民にとって、それらは珍しいものではないかもしれません。むしろ「物足りなさ」を感じてしまうことも少なくないでしょう。一方、生活感が漂う広い和室、まぎで沸かした風呂、地元の気候・風土を最大限に生かした郷土料理などは、農家民宿でなければ味わえないものです。素朴さ(純情)、優しさ(愛情)、温かさ(人情)など、情を感じられるおもてなしは、忘れられない思い出となります。まるで本当の家族と一緒にいるような「最高の時間」を過ごせること。それがお金では決して買えない、キラリと光るこの村の魅力。鮫川村に来なければ分からない自然の豊かさ、食べられない料理や普段触れることの少ない人の温かさを提供され、都市住民はお金では買えない、とてもぜいたくな「鮫川時間」を満喫するのです。

### Top Interview

#### 自然体で迎え入れるおもてなしを



村農家民宿連絡協議会長  
須藤啓太郎さん  
63 西山字岩野草

青菅小の受け入れは、原発事故の影響で継続できなくなってしまいましたが、子どもたちを受け入れたい思いは変わりません。農家民宿の受入人数は1軒当たり4、5人。現在の7軒では、やっと1クラス分になるくらいで、学校単位の受け入れは難しいのが現状です。もっと農家民宿が増えればいいなと思います。

農家民宿同士のつながり、行政との連携や地域の人たちの理解と協力を得て、体験メニューやおもてなしの質を充実させることも大切です。これによって、お客様の満足度や鮫川村の印象が格段に上がると思います。

鮫川村の農家民宿は、やっとスタートを切ったばかり。これからさらに面白くなりますよ。

きっかけは、2010年に青菅小の子どもたちを受け入れたことです。お別れ会では、子どもたちも私たちが涙を流しました。そのときの感動が忘れられず、仲間を募って開業に向けて動き始めました。普段の生活の中に都会の人たちを迎え入れることが1番のおもてなしになると考え、自然体で受け入れるように心掛けています。

少しでも村の活性化につなげようと、入浴は「さざり荘」を、お土産の購入などは「手・まめ・館」を利用するようにしています。今後は、商店なども利用したいですね。農家民宿を通して鮫川村を知ってもらえれば、移住定住や空き家対策などにつながる可能性もあるので、頑張って宣伝もしていきたいと思っています。

農家民宿「山百合」  
【宿主】須藤啓太郎  
【住所】鮫川村大字西山字岩野草  
31(☎0247)2872  
【泊泊人数】5人(営業日)年中無休(要相談)  
【時間】チェックイン15時/チェックアウト9時(料金6500円(1泊2食付))



# 発見 極上は日常の中に

私たちにとっての日常が都市住民にとっては非日常  
農家民宿がふるさとの価値を見直す機会に

観光資源は日常の中に

夜空を見上げれば無数の星、これを当たり前前に感じている私たち。しかし、都市住民がこの星空を目の当たりにすると、歓声を上げずにはいられません。豊かな自然、美しい農村景観、澄んだ空気が、満天の星空、丹精込めて作られた農産物や地元食材を生かした料理など、私たちにとっての日常が都市住民にとっては非日常であり、極上の魅力なのです。

観光資源は私たちの日常の中にあふれています。しかし、それが当たり前になってしまうと、その価値や魅力に気がつくにくくなってしまいます。  
ゲンゴロウやホトケドジョウを見て驚く顔、星空や農村景観に感動したり、料理やもてなしに喜んだりする姿を見ると、うれしくなります。交流によって村の魅力を発信するだけではなく、私たち自身が、ふるさとの価値を見直すことができるのです。

## 農家民宿は北斗七星

鮫川の農家民宿はスタートしたばかりです。ふるさとの価値を再発見しながら、試行錯誤を繰り返して、「おもてなし」の質を向上させていきます。

利用者に満足度の高いおもてなしを提供するためには、1軒1軒がその個性に磨きをかけて行くことが必要です。同時に、大人数の受け入れや協力しての体験メニューなどで、その可能性を広げていくことも重要です。  
ふるさとの星空の下、7軒が北斗七星のようにつながることで、農家民宿全体がますます輝きを増していくのです。

### くるま



**住所** 鮫川村大字富田字前沼218  
☎0247④9 3211  
**宿泊人数** 5人  
**営業日** 年中無休(要相談)  
**時間** チェックイン16時～  
チェックアウト9時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)  
**体験** 作付け、収穫



カツ子さん Katsuko  
青戸良一さん Aoto Ryouichi

### たんがら



**住所** 鮫川村大字渡瀬字中野町46  
☎0247④9 2130  
**宿泊人数** 3人  
**営業日** 年中無休(要相談)  
**時間** チェックイン15時～  
チェックアウト10時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)



遠藤サト子さん Endou Satoko

### ほうずき



**住所** 鮫川村大字西山字田中23  
☎0247④9 3096  
**宿泊人数** 5人  
**営業日** 年中無休(要相談)  
**時間** チェックイン15時～  
チェックアウト10時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)  
**体験** そば打ち、まき割り、農作業



増子三代さん Mashiko Mitsuyo

### さと郷里



**住所** 鮫川村大字西山字落合84  
☎0247④9 2588  
**宿泊人数** 4人  
**営業日** 5月～10月(要相談)  
**時間** チェックイン16時～  
チェックアウト10時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)  
**体験** 作付け、収穫、田植え、稲刈り



訓子さん Noriko  
本郷臣夫さん Hongou Tomio

### すまいる寿満笑留



**住所** 鮫川村大字西山字折戸56  
☎0247④9 2896  
**宿泊人数** 5人  
**営業日** 土・日曜日(平日は要相談)  
**時間** チェックイン15時～  
チェックアウト10時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)  
**体験** 郷土料理作り、お菓子作り、山菜採り、農作業



春江さん Harue  
阿久津一男さん Aketsu Kazuo

### はなの宿



**住所** 鮫川村大字西山字岩野草27  
☎0247④9 2870  
**宿泊人数** 5人  
**営業日** 年中無休(要相談)  
**時間** チェックイン15時～  
チェックアウト9時  
**料金** 6,500円(1泊2食付)  
**体験** 田植え、稲刈り  
**その他** 合鴨料理(11月20日～2月末) ※1週間前までに予約



根本良子さん Nemoto Yoshiko

鮫川村農家民宿開業補助金  
村内に住所があり、村内で農家民宿を開業しようとする人または団体に、補助金を交付する。補助金の対象となる経費は、旅館業の営業許可および飲食店の営業許可取得に必要な許認可申請費用。経費の2分の1以内の額を補助する。申請方法などの詳細については、役場企画調整課(☎④3115)に問い合わせてください。

失礼な言い方もかもしれませんが、鮫川村は、観光地ではありません。閑静な場所、山の中、いや、「何もない所」と聞きました。それが私にとっては魅力的で、「絶対に行きたい」と思いました。

実際に鮫川村を訪れてみると、空と川的美しさが印象的でした。野菜収穫体験では、夢中になって野菜や土を触りました。夕食は、採れたての山菜をふんだんに使ったメニューでした。東京のスーパーで売っている物とは比べものにならない鮮度。本当においしくて、最高のおもてなしだと思いました。

農家民宿の明るくて楽しいお母さん、穏やかで優しいお父さん、お二人の手柄に癒やされ、日常とはひと味違う至福の時を過ごすことができました。私にもふるさとができたと思っています。鮫川村は何回も訪れたい場所になりました。また鮫川村に「帰りたい」です。

農家民宿のお父さんお母さんとの交流は、今でも続いています。野菜を送ってもらったときには、うれしくてFacebookに投稿しました。鮫川村、鮫川村の人や農家民宿の良さを少しでも多くの人に知ってほしかったからです。投稿を見た友人からは、「いいな」「よかったね」など、うらやましがられました。SNSを利用すれば簡単に情報発信ができ、「拡散」「シェア」してもらうことで情報はさらに広がります。1人でも多くの方が「鮫川村に行ってみたい」と思い、足を運ぶきっかけになればこんなにうれしいことはありません。



原 明子さん(65)  
東京都港区

生まれも育ちも東京都港区。子どもの頃から田舎暮らしに強い憧れを抱く。観光地から外れた田舎を旅行し、福島県にも何度も足を運んでいた。震災を機に、福島県に恩返ししたいと思い、被災地の復興支援を行うNPO法人「Power of JAPAN」に加入。同団体が企画した「しらかわアグリツーリズムin鮫川」に参加し、農家民宿を利用した。

## 多くの人に鮫川村、鮫川村の人や農家民宿の良さを知ってほしい

### 村全体に広がる可能性

村外から人が来れば、少なくとも地域経済は活性化します。しかし、農家民宿は、今までになかった新たな恩恵を生み出す可能性を秘めています。

農家民宿が軌道に乗ると、2つのコミュニティが動き出します。1つは、農家民宿を利用する人と地元の人とのコミュニティ、いわば「外側のコミュニティ」。もう1つは、農家民宿同士、そして農家民宿を応援する地域のひととのコミュニティ、つまり「内側のコミュニティ」です。

# 発信

## ありのままの鮫川を

農家民宿の経営者が、そして村民一人一人が鮫川村をアピールする広告塔になり得ます

### 新たな情報発信の拠点に

スマートフォンが普及し、誰でもどこでも簡単に情報を得たり発信したりすることができるようになった。TwitterやFacebookなどのSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)、ブログによるPRなど、農家民宿は新たな情報発信の拠点にもなり得ます。

「少しでも村の魅力を発信していきたい」と話す農家民宿「寿満笑留」の阿久津春江さん(61) 〓 西山字折戸 〓 は、SNSを介して利用者とならび、互いの近況を確認し合っているといっています。「くるま」の宿主・青戸良一さん(73) 〓 富田字前沼 〓 も「私たちが鮫川村の魅力を発信すれば、理解者、ファンが増える。心強いし、やりがいにつながる」と話します。

鮫川の自然や料理などに感動した利用者が、SNSやブログに投稿し、投稿を見た人が「鮫川村に行ってみよう」と足を運ぶこともあるでしょう。農家民宿の情報は、強いつながりと影響力を持って連鎖し、村のファンを増やしていく可能性があるので。



鮫川村の農家民宿を利用した感想などが掲載されたFacebook(NPO法人「Power of JAPAN」公式Facebook)

### 輝きを増す鮫川の宝

先人から受け継がれてきた農家の暮らしと、新しく始まる地域内や都市との交流が、これらの星空(鮫川村)を作っていきます。農家民宿を開業した7軒は、北斗七星のように輝き、星空の中で存在感を増してきましたが、星空に輝くのは星座だけでなくではありません。

星空に瞬く星の一つ一つは、私たち一人一人。一つ一つの星(人)が輝きを増すことで、星空はさらに美しくなり、私たち自身を、都市住民を魅了するはず。

宝石箱のような夜空は、ずっと前から輝いてきた鮫川の宝。その宝に磨きをかけ、これまで以上に輝かせていくのは、私たち一人一人なんだと思います。

SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)「Twitter」「LINE」など、さまざまなSNSが開発されている。近年では、世界的な利用者の増加に伴い、各国の企業や政府機関なども積極的に利用し、情報発信を行っている。

【歳入関連】

■自主財源…村税(村民税や固定資産税など村の税金)や使用料(保育料や住宅使用料など)、財産収入、寄附金など村が自分の手で確保できるお金。

■依存財源…地方交付税や国庫支出金、県支出金、地方債など国や県の基準に基づき交付されたり、割り当てられるお金。

■地方交付税…すべての自治体が一定水準で行政サービスを提供できるように国から配分されるお金。普通交付税と特別交付税の2つからなる。

■繰入金…各種基金から繰り入れるお金。

■村債(地方債)…道路改良や住宅建設、水道整備などのさまざまな事業を行うために長期間借り入れるお金。

【歳出関連】

■物件費…委託料や消耗品、備品の購入、臨時職員の賃金などに使われるお金。

■人件費…職員の給料や手当、社会保険料、議員や各種委員の報酬などに使われるお金。

■普通建設事業費…道路や橋りょう、各種施設などの建設事業に使われるお金。

■補助費等…各種団体への補助金、村が加盟する団体などの負担金に使われるお金。

■公債費…村債の元利償還金。

■繰出金…一般会計から特別会計へ繰り出すお金。

■扶助費…高齢者や障がい者などの支援、子どもや妊産婦の医療費などに使われるお金。

■会計別予算の状況

会計別	予算額	対前年度比	伸び率(%)
一般会計	32億8,000万円	1億4,400万円	4.6
特別会計	14億3,906万円	1億2,583万円	9.6
国民健康事業勘定	5億1,864万円	5,740万円	12.4
保険直診勘定	6,938万円	△131万円	△1.9
簡易水道事業	1億9,975万円	5,075万円	34.1
村営バス事業	773万円	19万円	0.2
集落排水事業	3,149万円	48万円	1.5
介護保険	4億6,014万円	2,117万円	4.8
交流施設	1,370万円	△40万円	△2.8
学校給食センター	1億309万円	△110万円	△1.1
後期高齢者医療	3,514万円	△117万円	△3.2
予算総額	47億1,906万円	2億6,983万円	6.1

村民1人当たりに使われるお金は**854,389円**です。(前年度は802,867円でした)

民生費	161,942円 (2,781円増)	衛生費	94,076円 (8,059円増)
農林水産業費	146,142円 (12,440円増)	教育費	63,373円 (9,148円減)
総務費	117,124円 (1,763円減)	消防費	29,696円 (7,572円減)
土木費	106,961円 (72,015円増)	商工費	15,399円 (12,568円減)
公債費	99,354円 (13,941円増)	その他	20,322円 (26,708円減)

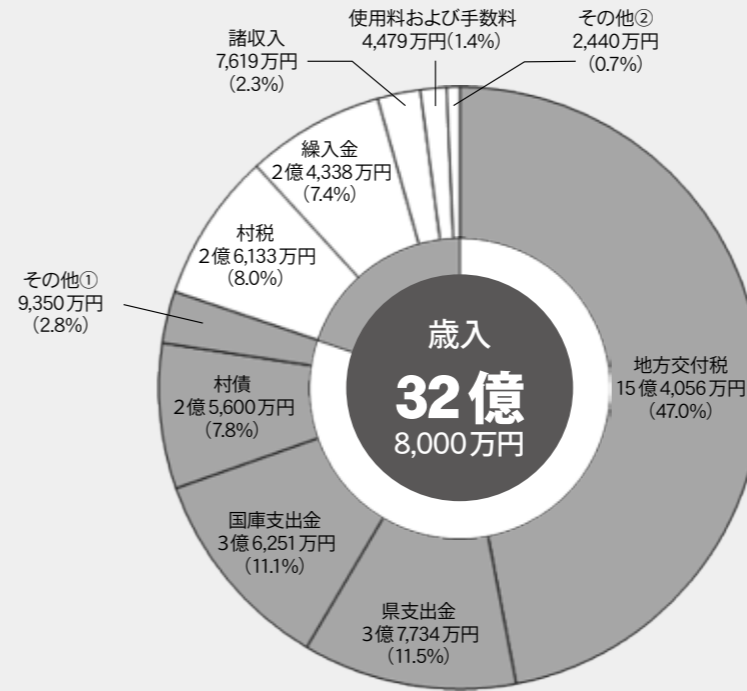
※一般会計のみ。H27.3.1現在の人口3,839人で計算。

歳入は、「自主財源」と「依存財源」に分けられます。

自主財源は、村税をはじめ村が自主的に収入できるお金で、依存財源は国や県から交付されるお金や借金をいいます。自主財源が多いほど、村の運営は安定し、独自性を保つことができます。

今年度は、自主財源である村税や使用料および手数料は前年度と同程度となりましたが、基金繰入金の減少により4,405万円減少しています。

依存財源では、地方消費税交付金や地方交付税、国庫支出金が前年度に比べて1億8,805万円増加しています。



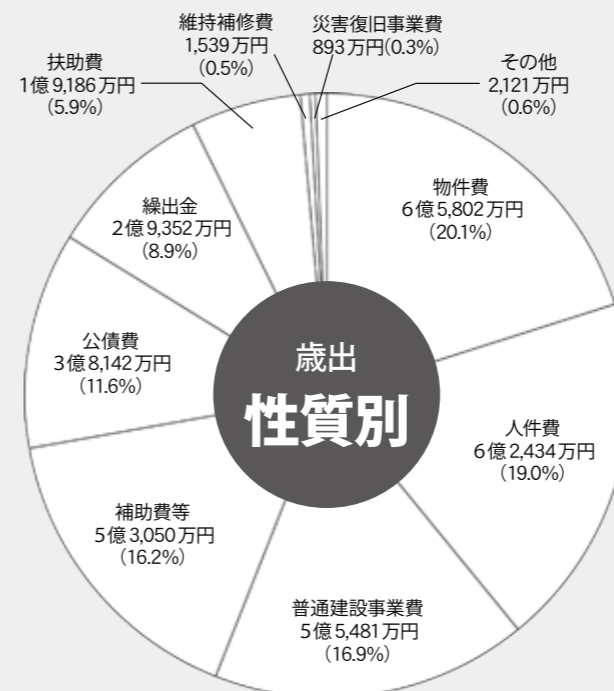
一般会計  
総額 **32億**

**8,000万円** 前年度比  
4.6%増

歳出予算のうち、一部事務組合への負担金や産業団体に対する補助金などの補助費等は前年度に比べて1億3,865万円増加しています。

また、公営住宅の整備や村道、農道の舗装・改良工事など普通建設事業費が前年度に比べて1億381万円増加しています。

一方で、農用地・山林除染委託料、施設管理費、臨時職員の賃金などの物件費は前年度と同程度となりましたが、職員などの給料を支出する人件費、扶助費、災害復旧事業費は、前年度に比べて9,576万円減少しています。



# 平成27年度 当初予算

27年度の村づくりが始まりました。一般会計の当初予算は、26年度に比べて1億4400万円(4.6%)増の32億8000万円となりました。27年度は、今後10年間の村づくりを定めた「第4次鮫川村振興計画」が新たにスタートします。目標の達成に向けて各種事業を行うとともに、東日本大震災からの復興を着実に進め、元気の出る村づくりに取り組みます。

# お金の使いみち



6〜7カ月児健康相談

## 【衛生費】 3億6,116万円

保健事業、予防接種や環境衛生などのため

- 東白衛生組合・東白斎苑運営費 1億5,048万円
- 乳幼児・妊産婦医療費助成事業 1,717万円
- 住民健康診査・がん健診事業 1,765万円
- 予防接種事業 1,013万円
- 浄化槽設置整備事業 428万円



村営バスあおぞら

## 【総務費】 4億4,964万円

選挙、戸籍、徴税、広報紙発行などのため

- 湯の田地区整備事業 3,500万円
- 行政区振興事業 1,519万円
- 生活バス路線運行事業 1,220万円
- 村議・村長・県議選挙執行費 1,092万円
- 住宅用太陽光発電設備設置補助事業 140万円



森林環境交付金を利用した木製の机と椅子

## 【農林水産業費】 5億6,104万円

農林業の振興や農林道の整備などのため

- 中山間地域等直接支払交付金事業 1億757万円
- ふくしま森林再生事業 1億1,874万円
- 農道整備事業 7,450万円
- 多面的機能支払交付金事業 2,115万円
- 農用地除染事業 1,070万円



こどもセンターお別れ会

## 【民生費】 6億2,170万円

高齢者、子どもや障がい者などの福祉のため

- こどもセンター運営費 1億8,619万円
- 障がい者福祉事業 9,931万円
- 高齢者生活支援事業 842万円
- 敬老祝金支給・敬老会開催事業 583万円
- 乳幼児紙おむつ給付事業 312万円



鹿角平観光牧場に建てられたコテージ

## 【商工費】 5,912万円

商工業の振興や観光施設の整備などのため

- 商工業振興事業 1,653万円
- 観光推進事業 918万円
- 鹿角平施設整備事業 540万円
- 消費者行政推進事業 248万円
- 鹿角平観光牧場指定管理業務 235万円



整備された村内の道路

## 【土木費】 4億1,063万円

道路や住宅を整備、維持するため

- 村道舗装補修事業 1億9,300万円
- 公営住宅整備事業 1億3,900万円
- 村道維持管理事業 1,824万円
- 道路環境美化事業 995万円
- 橋りょう点検業務 810万円



消防車両による分列行進（消防団出初め式）

## 【消防費】 1億1,400万円

消防施設の整備や消防団活動のため

- 広域常備消防運営費 7,755万円
- 消防団活動事業 2,209万円
- 防災行政無線施設管理業務 645万円
- 小型動力ポンプ積載車整備事業 313万円
- 消防施設整備事業 117万円



たくさんの方が並ぶ図書館

## 【教育費】 2億4,329万円

学校教育、生涯学習や体育振興などのため

- 体育施設解体事業 1,321万円
- 体育施設指定管理業務 1,019万円
- 基礎学力・英語力向上推進事業 1,046万円
- スクールバス運行事業 965万円
- 図書館運営事業 841万円

# 新しい指針が決定

25年9月から策定作業を進めてきた「第4次鮫川村振興計画」の基本構想が決定しました。今後10年間の村づくりの指針となります。

この振興計画(基本構想)は、「住民アンケート調査」「行政区懇談会」「村づくり委員会」などからの提言や思いを受けて、新たな村づくりに向けて策定したもので、27年度からスタートします。

## 村づくりの基本理念

人口減少・高齢化社会のなかで、環境と共生しながら持続可能な新しい村づくりを進めるために、すべての分野において基本とする村づくりの原則を次のとおり定めます。この基本理念には、「村民が世代を超えてつながり支えあい、一人ひとりが輝く村づくりをすすめる」という思いや「先人の知恵や技を継承し、新しい時代にふさわしいものに発展させていく」という思いなどが込められています。

## つながりで 支え輝く 村づくり ～笑顔あふれる ふるさとの創造～

基本理念を踏まえて、村づくりの3つの方向性を次のとおり定めます。



### 1. 「まめな暮らし」を生かした村づくり

これまで積極的に進めてきた鮫川流の「まめな暮らし」を生かした村づくりを今後も継承し、さらに発展させ、村全体を地域ブランドとして確立する村づくりを進めます。



### 2. 人が集まる美しい村づくり

基幹産業である農業を村づくりの中心に据え、活力あふれる村づくりを進めるとともに、本村ならではの地域特性・資源を生かし、多くの人が集まる美しい(美味しい)村づくりを進めます。



### 3. 「つながり」を生かす村づくり

人と人、人と地域、都市と農村など多様な「つながり」を生かす村づくりを進めます。人の輪、地域の和を大事にし、みんなで支えあい、生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくりを進めます。

## 目指す将来像

### きれいで安全な ふるさと鮫川

- 環境保全・美化活動の促進
- 上下水道の整備
- 公園・緑地の整備充実
- 消防・防災の充実 ほか

### 健やかで安心な ふるさと鮫川

- 保健・医療の充実
- 子育て支援の充実
- 高齢者支援の充実
- 健康づくりの促進 ほか

### 活力と交流に満ちた ふるさと鮫川

- 農林業の振興
- 観光・交流の促進
- 商工業の振興
- 雇用対策の推進 ほか

### 人と文化が輝く ふるさと鮫川

- 学校教育の充実
- 生涯学習の推進
- スポーツの推進
- 文化芸術活動の促進 ほか

### 生活基盤が整った ふるさと鮫川

- 住宅施策の推進
- 定住・移住の促進
- 道路・公共交通の充実
- 情報化の推進 ほか

### ともにつくる ふるさと鮫川

- 地域づくり活動の支援
- 協働の村づくりの推進
- 計画的な自治体経営の推進
- 男女共同参画の促進 ほか

## 重点構想

分野横断的に村一体となって重点的に取り組む8つの重点構想を定めました。

- 1 つながりでさめがわ回帰**  
鮫川村とつながりのある人々、歴史や伝統・文化とつながりたい人々の帰郷や移住促進
- 2 中心市街地・空き家・集落対策**  
創意工夫で生き生きとした生活空間を守る
- 3 こども・若者・女性の定住**  
こどもが夢を持ち若者や女性が自己実現できる環境をつくる
- 4 多様な働き方**  
伝統食や生活文化を掘り起こしまめな仕事をたくさんつくり定住を促進
- 5 つながりで顔の見える交流**  
農村文化と都市の人々がつながる顔の見える交流で移住や人材・仕事の誘致を促進および村民の技術や知識を高める
- 6 新しい農業観による農業振興**  
食と農と環境がつながる懐の深い農業の推進
- 7 地域自給自足の理念**  
循環型農業や自然エネルギーを活用したエネルギーの地産地消の推進
- 8 観光資源の整備充実によるにぎわい創出**  
農村の暮らしまるごと観光資源



**農作業や都市交流など  
多くのことを体験**

緑のふるさと協力隊とは、特定非営利活動法人「地球緑化センター」が主催するプログラムです。自分の将来への可能性を見つけようとする若者たちが、農山村を舞台に1年間地域に密着し、さまざまな活動を行います。

受け入れ自治体は地域づくりに隊員の感性・行動力を生かし、隊員は行政や地元の人と共に地域活動に取り組みます。

鮫川村は2005年から隊員を受け入れ、私は8代目となります。

私は、子どものときから親の都合で、全国各地を移動し、さまざまな環境に身を置きました。そのため、知らない場所に行き、新しい風景、人に出会うことが好きになりました。

鮫川村の協力隊員として、14年4月10日に着任。富田地区に家を借り、地区の住民として生活を始めました。

した。  
協力隊に参加したきっかけは、14年1月に東京国際フォーラムで行われた「新農業人フェア」で地球緑化センターの職員と知り合いました。農作業は1年を通してこそ意味があると思ったからです。そして、大豆が特産品であること、大学生をはじめとする都市交流が盛んであることから鮫川村を希望しました。

開発の手伝い、大豆栽培、家の脇の畑ではいろいろな野菜を作りました。  
特に印象に残っていることは、大豆栽培です。6月に作付けしてから収穫までの一連の流れを体験しました。農業の大変さが最も身に染みる作業だったので、はないかと思えます。農産物加工・直売所「手・まめ・館」では、販売業務や加工業務の手伝いをさせていただけました。現場に入ることによって、鮫川村の6次産業がどのようなものかを知ることができました。そ

して、買い物客や生産者の意見を聞き、直売所の大切さが改めて分かりました。  
他にも▼農家民宿の宣伝▼広報紙の原稿執筆▼うまいの祭りや西野区相撲大会などの行事参加▼東京農大や大妻女子大などの実習やグリーン・ツーリズムの同行など村の多くの事に関わらせていただきました。それにより各地区、各集落の雰囲気や直接知りたがり、都市部から来た人たちが鮫川村をどう捉えているのかを聞くことができました。

よそ者がなじみやすい環境づくりが大切  
活動を通して感じたことがあります。まずは、「人との関わり」です。地区住民、村民同士の親交が深く、青年会、消防団、お祭り、サロンなど、交流する機会が多いと感じました。また、よそ者の私を温かく輪の中に迎えてくれました。村民の皆さんの優しき、支え合い、気遣いなどに触れ、人付き合いの大切さに気が付きました。

でき、本当にこのプログラムをやったよかったと思いました。  
一方で、人との関わりを通して見えてきた課題もあります。▼人口減少、高齢化によるコミュニティの衰退▼車を運転できない人は不便で孤立してしまいがち▼よそ者が来ると注目が集まり互いに警戒してしまいがち▼などです。都会が好まれる理由は、埋もれることができるからです。注目されるのが嫌いな人も徐々になじんでいくことができる工夫と気を使い過ぎず、ストレスにならない環境が必要です。また、それと同時に挑戦できる舞台が必要なのではないかと思えます。

**地道な作業の継続が  
鮫川の自然環境を守る**

次に、「自然環境」です。花(ヤマユリ、江竜田のツツジ)、ホタル、星空が特にきれいだと感じました。しかし、このような自然環境



4\_大妻女子大のホタルツアーに同行しました。女性に囲まれて自然と顔がにやけてしまいます  
/5\_「高原の鮫川うまいもの祭り」に参加しました。村内外から多くの人々が訪れました  
/6\_西野区相撲大会に出場。細い体を酷使しました

エン・ドウ・ライフ 最終回  
**縁DO LIFE** ~笑顔を力に~

鮫川村で約1年間を過ごした緑のふるさと協力隊の遠藤敬介さん。  
見知らぬ土地で、さまざまなことに挑戦し、体験しました。  
その中でたくさんの人、食や自然との出会いがありました。  
今回、活動のまとめとして、1年間を振り返ってもらいました。  
敬介さんの目には、どのように鮫川村が映ったのでしょうか。  
敬介さんの鮫川体験記「縁・DO・LIFE」最終回です。



1\_鮫川村に来たばかりのころの私。まだ緊張が解けない表情をしています  
/2\_田んぼの代かきを手伝いました。初めてトラクターを操縦しました  
/3\_「手・まめ・館」でレジ業務を手伝っていました。皆さんに顔を覚えてもらえました



1\_白河市で開催された「ゆるキャラフェスタ」に「ゆうきの郷土」イメージキャラクターの「ゆうきくん」と参加。鮫川村をアピールしました/2「若葉のふるさと協力隊」に参加した大学生と船木正衛さん＝富田宇反田＝の自宅で焼き肉を堪能しました。/3\_折戸地区のサロンに参加しました。地区の高齢者が集まり話をしたり体を動かしたり楽しいひと時を過ごしていました/4\_江竜田の滝のツツジが見ごろを迎え、とてもきれいでした



5\_家の前に咲いたヒマワリ。自然が豊かな鮫川村では四季の移り変わりを実感できました/6\_鮫川村特産品のエゴマを使ったじゅうねんソフト。子どもから高齢者まで幅広い年代に人気です/7\_「田んぼのオーナー」の稲刈りを手伝いました。コンバインも初めて使いました/8\_「田んぼのオーナー」の受入農家さんとオーナーの皆さんで集合写真

も農薬や洗剤の影響により昔に比べると川が汚染され、ホタルや小魚が減少していると聞きました。他にも鳥獣被害や外来種の雑草の増加が目立ちます。これからどれだけ有機栽培が普及し、それに伴ってたい肥が浸透するか、そして一人一人の心掛けに委ね、地道な作業を続けることが重要です。

有志で環境整備をしている「もりづくり100年委員会」の皆さんに出会いました。主に館山公園の整備・管理作業を行い、福島市の花見山公園に負けないようにと励んでいます。すぐに効果は出ない地道な作業、だからこそ自ら行動することによって周りを巻き込み、みんなでやる必要があると知りました。

食べることもできました。しかし、見た目がいい物しか売れなかったり、出荷できなかったりします。放射能の風評被害により買うのをためらってしまうのが現状です。改善するには、とにかく村の食品のPRとブランド化です。これは、付加価値を付けるということですが、ただ売るということではなく、いかにたくさんの方に食べてもらうかが、鍵になります。

また、農業体験を通して直接作って食べることは、何より村の食品に対して関心をもってもらう機会になります。そうした体験として「田んぼのオーナー制度」を運営している皆さんを紹介しています。09年に渡瀬地区のさめがわライフサポートとオーナーとして企画した人たちが協力して、この取り組みが始まりました。私も田の草取り、稲刈り、脱穀作業に参加させていただきました。鮫川村の食べ物を直に食べてもらう素晴らしい機会、交流だと思いま

### 地域づくり、景観整備に役立つ人材になりたい

協力隊として1年間活動し、反省すべき点もたくさんありました。相手に対する気遣いが欠けていたり、物事を勝手に判断してしまったり、活動当初は何をすればいいかも分からず自由奔放に動き過ぎたりしてしまいました。「郷に入ったら郷に従え」というように自分の価値観は二の次で与えられたことは何でも一生懸命やらなくてはと気付きました。また、分からないことがあれば、すぐ聞くということもこれから生きていく上で必ずやらなくてはいけないことだと思えます。

これからの目標は、鮫川村の地域づくり、景観整備の役に立てる人材になることです。そのために、鮫川村のことを知らないこと



1年間のまとめを発表した活動報告会

が多いので、1つ1つ覚えていこうと思います。そして、ネットワークを広げ、鮫川村を宣伝し、人口減少に対し、今後どうすれば移住定住につなげることができているのか研究していきたいと思えます。

最後に、1年間たくさんの人たちに支えていただいたおかげで、ここまで過ごすことができました。大変感謝しています。

そして、4月からも引き続き、鮫川村に住むことになりました。これからは少しずつ鮫川村の力になれるよう頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひします。